

2023年3月

寿都町・神恵内村の文献調査で収集し情報を抽出した文献・データのリスト(追加分)

- 収集し、情報を抽出した文献・データの追加分の具体名をリストにしました。
- 2022年7月12日以降で2023年3月13日までに追加した文献・データ数は、102件です。
- 火山・火成活動や断層活動などの項目間の重複は除いています。
- 調査は寿都町、神恵内村それぞれで進め、報告書においてはもちろん、それぞれのリストを作成しますが、現在のところ、共通の文献・データが多いため、前回と同様に寿都町、神恵内村合わせたリストとしております。
- 調査は現在、「文献・データに基づく評価」の段階です。2022年11月29日より、国の審議会で「文献調査段階の評価の考え方」について、審議が行われており、これに伴って、新たに追加したものも含まれています。
- 今後も、新たに必要となった場合には追加して収集します。
- これらの文献・データの情報をもとに評価を進めており、評価結果を報告書にとりまとめます。評価に用いた情報の出典である文献・データを報告書の引用文献として報告書に掲載します。

<リストの記載方法>

- **著者名**，（発表年），**タイトル**，**雑誌や報告書名**，**巻・号・頁**や**発行所**などの順で記載しています。
例：赤松守雄，山田悟郎，渡部真人（1987）積丹半島から産出する化石について，北海道開拓記念館調査報告，26，pp. 3-8.
- ウェブサイトの場合、著者名、タイトル、閲覧日などの順です。
- 英文も含むことから、慣例に従い、著者名をアルファベット順で並べています。同じ著者の場合は発表年順です。五十音とアルファベットの対応について、次頁の表をご参照ください。

五十音とアルファベットの対応（ローマ字表記）

あ い う え お	が ぎ ぐ げ ご	きゃ きゅ きょ
A I U E O	GA GI GU GE GO	KYA KYU KYO
か き く け こ	ざ じ ず ぜ ぞ	しゃ しゅ しょ
KA KI KU KE KO	ZA JI ZU ZE ZO	SHA SHU SHO
さ し す せ そ	だ ぢ づ で ど	ちゃ ちゅ ちょ
SA SHI SU SE SO	DA DI DU DE DO	CHA CHU CHO
た ち つ て と	ば び ぶ べ ぼ	にゃ にゅ によ
TA CHI TSU TE TO	BA BI BU BE BO	NYA NYU NYO
な に ぬ ね の	ぱ ぴ ぷ ぺ ぽ	ひゃ ひゅ ひょ
NA NI NU NE NO	PA PI PU PE PO	HYA HYU HYO
は ひ ふ へ ほ		みゃ みゅ みょ
HA HI FU HE HO		MYA MYU MYO
ま み む め も		りゃ りゅ りょ
MA MI MU ME MO		RYA RYU RYO
や ゆ よ		ぎゃ ぎゅ ぎょ
YA YU YO		GYA GYU GYO
ら り る れ ろ		じゃ じゅ じょ
RA RI RU RE RO		JA JU JO
わ を		びゃ びゅ びょ
WA WO		BYA BYU BYO
		ぴゃ ぴゅ ぴょ
		PYA PYU PYO

アルファベット順

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

A

Abdelwahed, M. F., Zhao, D. (2007) Deep structure of the Japan subduction zone, *Physics of the Earth and Planetary Interiors*, 162, pp. 32–52.

秋葉 力, 藤江 力, 松井 愈, 岡部賢二, 酒匂 純俊, 魚住 悟 (1966) 北海道西南部における火成活動と地質構造, *地団研専報*, 12, pp. 16–24.

Asamori, K., Zhao, D. (2015) Teleseismic shear wave tomography of the Japan subduction zone, *Geophysical Journal International*, 203, pp. 1752–1772.

B

番場猛夫, 岡部賢二, 成田英吉 (1971) 後志国岩平峠周辺地域の銅・鉛・亜鉛・マンガン鉱床調査報告, *北海道地下資源調査資料*, 120, pp. 1–15, 北海道開発庁.

C

知徳 力 (1984) 北海道西南部, 上八雲地域の地質と微化石 (放散虫化石と石灰質超微化石), *地質学雑誌*, 90, 5, pp. 299–310.

Creveling, J.R., Mitrovica, J.X., Clark, P.U., Waelbroeck, C., Pico, T. (2017) Predicted bounds on peak global mean sea level during marine isotope stage 5a and 5c, *Quaternary Science Reviews*, 163, pp. 193–208.

D

土居繁雄, 長谷川 潔, 寺島克之, 高橋功二, 斎藤昌之, 小山内 熙, 五十嵐昭明, 岡部賢二, 鈴木 哲, 財原浩美, 坂下正弘, 秋元友造, 横平 弘 (1977) 特定鉱床開発促進調査資料「泊川上流地域」, 北海道開発局長官房.

F

藤井敬三, 曾我部正敏 (1978) 北海道における後期中新世から鮮新世にみられる構造運動, *地質調査所月報*, 29, 10, pp. 631–644.

深畑幸俊, 岡崎智久, 西村卓也 (2022) GNSSデータに基づく日本列島の歪み速度場と島弧間および島弧内変動, *地学雑誌*, 131, 5, pp. 479–496.

G

Goto, Y., Suzuki, K., Shinya, T., Yamauchi, A., Miyoshi, M., Danhara, T., Tomiya, A. (2018) Stratigraphy and Lithofacies of the Toya

Ignimbrite in Southwestern Hokkaido, Japan: Insights into the Caldera-forming Eruption at Toya Caldera, *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, 127, 2, pp. 191–227.

H

Hasegawa, A., Nakajima, J., Uchida, N., Okada, T., Zhao, D., Matsuzawa, T., Umino, N. (2009) Plate subduction, and generation of earthquakes and magmas in Japan as inferred from seismic observations: An overview, *Gondwana Research*, 16, pp. 370–400.

長谷川 昭, 中島淳一 (2022) 陸域下の低周波地震とその地震学のおよびテクトニクスの意義, *地学雑誌*, 131, 3, pp. 289–315.

長谷川四郎 (1998) 北海道西南部今金地域に分布する“貝殻橋砂岩層”の底生有孔虫群集, *今金地域研究*, 4, pp. 1–17, 今金町教育委員会.

長谷川四郎 (1999) 底生有孔虫化石層序に関する古海洋学的考察—北海道の新第三系を例にして—, *石油技術協会誌*, 64, 1, pp. 40–48.

橋本 亘, 菅野三郎, 品田 穰, 大島一精 (1963) 北海道渡島半島今金—国縫—八雲間の地質, *地質学雑誌*, 69, 812, pp. 228–238.

北海道 (1995) 平成 5 年 (1993 年) 北海道南西沖地震災害記録.

Honda, S., Yoshida, T. (2005) Application of the model of small-scale convection under the island arc to the NE Honshu subduction zone, *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, 6, 1, Q01002, doi: 10.1029/2004GC000785.

Honda, S., Yoshida, T., Aoike, K. (2007) Spatial and temporal evolution of arc volcanism in the northeast Honshu and Izu-Bonin Arcs: Evidence of small-scale convection under the island arc?, *Island Arc*, 16, pp. 214–223.

堀 昌雄, 高木慎一郎, 玉生志郎, 村岡洋文, 品田正一, 清川 求 (1986) 全国地熱資源総合調査の地域レポート [1] ニセコ地域 (火山性熱水対流系地域タイプ①), *地熱エネルギー*, 11, 4, pp. 340–368, 新エネルギー財団地熱本部.

Hua, Y., Zhao, D., Xu, Y., Wang, Z. (2019) Arc-arc collision caused the 2018 Eastern Iburi earthquake (M 6.7) in Hokkaido, Japan, *Scientific Reports*, 9:13914, doi: 10.1038/s41598-019-50305-x.

I

伊木常誠 (1911) 明治四十三年度鑛物調査ノ概要, 後志國銀山地方ノ鑛山, 鑛物調査報告 (北海道之部), 1, pp. 21–33, 地質調査所.

Imperial Geological Survey of Japan (1902)

Outlines of the geology of Japan : descriptive text to accompany the geological map of the Empire on the scale 1:1,000,000.

石井次郎, 守屋 洋, 岡村 聡, 国分公貴, 山谷潤 (1990) 北海道積丹半島沖二子海丘西峰から採取された火山岩円礫 (予報), 北海道東海大学紀要理工学系, 3, pp. 13–20.

石塚 治, 岡村行信, 荒井晃作, 池原 研, 片山肇 (2000) 北海道西方海域及び秋田沖海域より採取された岩石試料, 地質調査所速報, MG/00/1, pp. 67–89.

磯崎行雄, 丸山茂徳, 青木一勝, 中間隆晃, 宮下敦, 大藤 茂 (2010) 日本列島の地体構造区区分再訪 —太平洋型(都城型)造山帯構成单元および境界の分類・定義—, 地学雑誌, 119, 6, pp. 999–1053.

K

火力原子力発電技術協会: 地熱発電関係の情報の収集及び提供,

<https://www.tenpes.or.jp/mmetc/>, 2023年1月20日閲覧.

気象庁編 (1995) 平成5年(1993年)北海道南西沖地震調査報告 —災害時自然事象報告書一, 気象庁技術報告, 117.

気象庁: 主な地震の発震機構解(速報値) 地震別詳細 2022年12月15日13時30分頃 後志地方西部 M4.3, <https://www.data.jma.go.jp/eew/data/mech/fig/mc2022121513300000N424200E14018000124243.html>, 2023年2月21日閲覧.

北村 信 (1978) 後期白亜紀以降の東北日本弧と日高弧, 地団研専報, 21, pp. 161–168.

Kita, S., Hasegawa, A., Nakajima, J., Okada, T., Matsuzawa, T., Katsumata, K. (2012) High-resolution seismic velocity structure beneath the Hokkaido corner, northern Japan: Arc-arc collision and origins of the 1970 M 6.7 Hidaka and 1982 M 7.1 Urakawa-oki earthquakes, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 117, B12301, doi: 10.1029/2012JB009356.

Koizumi, I. (1979) Age assignments for sediment samples cored and dredged, *Geological Investigation of the Japan Sea*, April – June 1978 (GH78-2 Cruise), *Cruise Report*, 13, pp.

67–69, Geological Survey of Japan.

Koulakov, I., Kukarina, E., Fathi, I. H., El Khrepy, S., Al-Arifi, N. (2015) Anisotropic tomography of Hokkaido reveals delamination-induced flow above a subducting slab, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 120, pp. 3219–3239.

L

Lee, C., Wada, I. (2017) Clustering of arc volcanoes caused by temperature perturbations in the back-arc mantle, *Nature Communications*, 8, 15753, doi: 10.1038/ncomms15753.

Lee, C., Wada, I. (2021) Volcano clustering promoted by the cessation of back-arc spreading and ensuing nascent lithospheric drips, *Geophysical Research Letters*, 48, e2020GL091433, doi: 10.1029/2020GL091433.

Liu, X., Zhao, D., Li, S. (2013) Seismic heterogeneity and anisotropy of the southern Kuril arc: insight into megathrust earthquakes, *Geophysical Journal International*, 194, pp. 1069–1090.

Liu, X., Zhao, D. (2016) Seismic velocity azimuthal anisotropy of the Japan subduction zone: Constraints from P and S wave traveltimes, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 121, pp. 5086–5115.

Liu, X., Zhao, D. (2017) P-wave anisotropy, mantle wedge flow and olivine fabrics beneath Japan, *Geophysical Journal International*, 210, pp. 1410–1431.

Lyman, B. S., Muroe, H. S., Yamauchi, T., Akiyama, Y., Inagaki, T., Kuwada, T., Misawa, S., Takahashi, J., Kada, T., Ban, I., Saito, T., Shimada, J., Yamagiwa, E., Mayeda, S., Nishiyama, S. (1876) A geological sketch map of the Island of Yesso, Japan (日本蝦夷地質要畧之圖), Geological Survey of Hokkaido.

M

松田時彦 (1975) 活断層から発生する地震の規模と周期について, 地震 第2輯, 28, pp. 269–283.

松田時彦 (1990) 最大地震規模による日本列島の地震分帯図, 地震研究所彙報, 65, pp. 289–319.

松田時彦, 吉川真季 (2001) 陸域の M \geq 5 地震と活断層の分布関係 —断層と地震の分布関係—

- その2, 活断層研究, 20, pp. 1-22.
- 松波武雄, 鈴木隆広 (1997) 道内温泉水等の水素・酸素同位体比, 地下資源調査所報告, 68, pp. 149-152.
- 湊 正雄, 長谷川美行 (1959) 本邦溶結凝灰岩の研究 第1報 熱郭溶結凝灰岩について, 地質学雑誌, 65, 761, pp. 66-70.
- 湊 正雄 (1978) 北海道の古期火山噴出物, 地団研専報, 21, pp. 193-197.
- Morishige, M., van Keken, P. E. (2014) Along-arc variation in the 3-D thermal structure around the junction between the Japan and Kurile arcs, *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, 15, pp. 2225-2240.
- Morishige, M. (2015) A new regime of slab-mantle coupling at the plate interface and its possible implications for the distribution of volcanoes, *Earth and Planetary Science Letters*, 427, pp. 262-271.
- 本山 功 (1999) 本邦含油新第三系をめぐる放散虫化石層序の進歩—石油探鉱への適用—, 石油技術協会誌, 64, 3, pp. 268-281.
- 本山 功 (2000) GH99 航海により日本海海底から採取された岩石・堆積物試料の放散虫化石による年代分析, 地質調査所速報, MG/00/1, pp. 94-98.
- 本谷義信 (1994) 北海道の活断層と微小地震, 北海道地区自然災害科学資料センター報告, 9, pp. 3-24.
- N**
- Nakamura, M., Yoshida, Y., Zhao, D., Takayama, H., Obana, K., Katao, H., Kasahara, J., Kanazawa, T., Kodaira, S., Sato, T., Shiobara, H., Shinohara, M., Shimamura, H., Takahashi, N., Nakanishi, A., Hino, R., Murai, Y., Mochizuki, K. (2008) Three-dimensional P- and S-wave velocity structures beneath Japan, *Physics of the Earth and Planetary Interiors*, 168, pp. 49-70.
- 中田英二, 田中和広 (2001) マグマの貫入が岩盤に与える影響—活火山周辺に分布するマグマ噴出跡の分布—, 日本応用地質学会平成13年度研究発表会講演論文集, pp. 55-58.
- 中田 高 (2015) 詳細 DEM 画像による日本列島周辺海域の変動地形学的研究, 科学研究費助成事業研究成果報告書.
- 野原 壯, 郡谷順英, 今泉俊文 (2000) 活断層 GIS データを用いた地殻の歪速度の推定, 活断層研究, 19, pp. 23-32.
- 能條 歩, 鈴木明彦, 松田敏孝, 都郷義寛 (1996) 西南北海道における黒松内層相当層の再検討, 日本地質学会第103年学術大会講演要旨, p. 110.
- 能條 歩, 鈴木明彦 (1999) 貝殻密集層のタフオノミー—軟体動物化石と有孔虫化石の複合解析による堆積過程の復元—, 地質学論集, 54, pp. 35-54.
- 農商務省地質調査所 (1899) 百萬分一大日本帝國地質圖および説明書.
- O**
- 大日方順三 (1911) 渡島國及後志國鑛床調査報文 茂岩鑛山, 鑛物調査報告 (北海道之部), 6, pp. 56-67, 地質調査所.
- 大日方順三 (1911) 渡島國及後志國鑛床調査報文 稻倉石鑛山, 鑛物調査報告 (北海道之部), 6, pp. 169-179, 地質調査所.
- 大日方順三 (1912) 後志國及渡島國ノ鑛床調査報文 後志國瀨棚地方ノ滿俺鑛, 鑛物調査報告 (北海道之部), 12, pp. 1-40, 地質調査所.
- Oka, D., Tamura, M., Mogi, T., Nakagawa, M., Takahashi, H., Ohzono, M., Ichiyangi, M. (2023) Conceptual model of supercritical geothermal system in Shiribeshi Region, Hokkaido, Japan, *Geothermics*, 108, 102617, doi: 10.1016/j.geothermics.2022.102617.
- 岡村 聡 (2022) 寿都町・神恵内村は深地層処分の適地か?—地質学的視点から考える—, 地学教育と科学運動, 89, pp. 41-47.
- 岡 孝雄, 三谷勝利 (1981) 今金町の地質, 今金町.
- 大久保泰邦 (1984) 全国のキュリー点解析結果, 地質ニュース, 362, pp. 12-17.
- 大久保泰邦 (1993) 日本列島の温度勾配図, 日本地熱学会誌, 15, 1, pp. 1-21.
- 大久保泰邦, 秋田藤夫, 田中明子 (1997) 北海道の温度勾配図とシミュレーション, 地質ニュース, 517, pp. 24-29.
- 奥野 充 (2003) ニセコ・イワオヌプリ、大雪山・旭岳・屈斜路・アトサヌプリにおける最新噴火の年代学的研究, 北海道における完新世火山の火山活動特性の評価, 平成12年度~平成14年度科学研究費補助金(基礎研究(C)(2))研究成果報告書(課題番号 12640461), pp. 13-23.
- S**
- 嵯峨山 積, 保柳康一, 石井次郎 (1988) 北海道積丹半島沖海洋火山, 1988年調査で採取された堆積岩中の珪藻群集, 北海道東海大学紀要理

- 工学系, 1, pp. 17–21.
- Sagiya, T. (2004) A decade of GEONET: 1994–2003 —The continuous GPS observation in Japan and its impact on earthquake studies—, *Earth, Planets and Space*, 56, pp. xxix–xli.
- 佐藤比呂志 (1989) 東北本州弧における後期新生界の変形度について, *地質学論集*, 32, pp. 257–268.
- 沢田義男 (1961) 北海道瀬棚郡今金町北方の新第三紀層, *室蘭工業大学研究報告*, 3, 4, pp. 635–646.
- Sawada, Y. (1962) The Geology and Paleontology of the Setana and Kuromatsunai Areas in Southwest Hokkaido, Japan, *Memoirs of the Muroran Institute of Technology*, 4, 1, pp. 1–110.
- Siddall, M., Chappell, J., Potter, E.-K. (2007) Eustatic sea level during past interglacials, Sirocko, F., Claussen, M., Sánchez Goñi, M.F., Litt, T. (Eds.): "The Climate of Past Interglacials", Elsevier, pp. 75–92.
- 菅原 誠, 嵯峨山 積 (2022) 西南北海道北部, 磯谷地域の新第三紀磯谷層の珪藻生層序, *総合地質*, 6, 1, pp. 39–46.
- 鈴木明彦, 都郷義寛, 能條 歩 (1996) 西南北海道の鮮新世後期の“Pectinid 群集”, *日本地質学会第 103 年学術大会講演要旨*, p. 154.
- 鈴木達夫 (1930) 後志國茅沼炭田調査報文, *鑛物調査報告 (北海道之部)*, 37, pp. 1–24, 地質調査所.
- 鈴木尉元 (1979) 北海道とその周辺地域の中・深発地震の発震機構と地質構造との関係, *地球科学*, 33, 6, pp. 313–318.
- T**
- 高橋 清, 一ノ関鉄郎, 大倉 保, 秋葉文雄, 村田勇治郎, 古田土俊夫 (1980) 北海道渡島半島新第三系微化石層序—主に, 有孔虫・珪藻・放射虫・各化石の産出状態と, それらの生層序学的関係について—, *技研所報*, 23, 3–4, pp. 142–167, 石油資源開発株式会社技術研究所.
- 竹内 章, 岡村行信, 加藤幸弘, 池原 研, 張勁, 佐竹健治, 長尾哲史, 平野真人, 渡辺真人 (2000) 日本海東縁, 奥尻海嶺および周辺の大震災と海底変動, *JAMSTEC 深海研究*, 16, pp. 29–46.
- Tamura, M., Oka, D., Okazaki, N., Suzuki, K., Hashimoto, T., Mogi, T. (2022) Magnetotelluric survey and three-dimensional resistivity structure in and around the Niseko area, southwestern Hokkaido, *Geothermics*, 105, 102496, doi: 10.1016/j.geothermics.2022.102496.
- 田中明子, 大久保泰邦, 松林 修 (1997) 東・東南アジア地域のキュリー点深度解析, *地震* 第 2 輯, 50, pp. 183–194.
- 田中 実 (2022) 寿都には青い海 (Ver.5.01), <http://kakugomi.no.coocan.jp/contents/kanren.html>, 2023 年 2 月 22 日閲覧.
- 徳山英一, 竹内 章, 徐 垣, 石井次郎, 嵯峨山 積, 菅 和哉, 宮下純夫, 倉本真一 (1991) 日本海東縁奥尻海嶺におけるバック・スラスト, *海洋科学技術センター試験研究報告書* —第 7 回「しんかい 2000」研究シンポジウム—, pp. 245–252.
- 東宮明彦, 宮城磯治 (2020) 洞爺噴火の年代値, *火山*, 65, 1, pp. 13–18.
- W**
- Wada, I., He, J., Hasegawa, A., Nakajima, J. (2015) Mantle wedge flow pattern and thermal structure in Northeast Japan: Effects of oblique subduction and 3-D slab geometry, *Earth and Planetary Science Letters*, 426, pp. 76–88.
- Wang, J., Zhao, D. (2009) P-wave anisotropic tomography of the crust and upper mantle under Hokkaido, Japan, *Tectonophysics*, 469, pp. 137–149.
- Wang, Z., Zhao, D., Liu, X., Chen, C., Li, X. (2017) P and S wave attenuation tomography of the Japan subduction zone, *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, 18, pp. 1688–1710.
- Wang, Z., Zhao, D. (2019) Updated attenuation tomography of Japan subduction zone, *Geophysical Journal International*, 219, pp. 1679–1697.
- Wang, Z., Zhao, D. (2021) 3D anisotropic structure of the Japan subduction zone, *Science Advances*, 7, eabc9620, doi: 10.1126/sciadv.abc9620.
- 渡辺真人 (2000) GH99 航海で採取された泥岩試料の珪藻化石に基づく年代, *地質調査所速報*, MG/00/1, pp. 90–93.
- Wirth, E. A., Korenaga, J. (2012) Small-scale convection in the subduction zone mantle wedge, *Earth and Planetary Science Letters*, 357–358, pp. 111–118.

Y

- 矢島澄策 (1937) 狩場火山に就いて (豫報), 地質学雑誌, 44, 525, pp. 476-477.
- 矢島澄策, 陸川正明 (1939) 長萬部圖幅説明書, 北海道工業試験場地質調査報告, 3.
- 山縣耕太郎 (1994) 支笏およびクッタラ火山のテフクロロジー, 地学雑誌, 103, 3, pp. 268-285.
- 山岸宏光, 和氣 徹 (1995) 島牧村の地質と資源・環境, 島牧村.
- 山岸宏光編 (2012) 北海道の地すべり地形デジタルマップ, 北海道大学出版会.
- 矢野牧夫 (1983) 黒松内低地帯南部の中・上部更新統と古環境, 日本地質学会北海道支部・日本応用地質学会北海道支部学術シンポジウム講演要旨集, pp. 27-29.
- Yoo, S., Lee, C. (2020) Correlation of Quaternary volcano clusters with partial melting of mantle wedge, Northeast Japan: A numerical model study, *Geophysical Research Letters*, 47, e2019GL086205, doi: 10.1029/2019GL086205.
- 吉村豊文 (1942) 北海道稻倉石鑛山鑛床調査概報, 地質調査所輯報別輯, 1, pp. 28-30.
- Yu, Z., Zhao, D. (2020) Seismic evidence for water transportation in the forearc off Northern Japan, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 125, doi: 10.1029/2019JB018600.

Z

- Zhao, D., Hasegawa, A. (1993) P wave tomographic imaging of the crust and upper mantle beneath the Japan Islands, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 98, pp. 4333-4353.
- Zhao, D., Hasegawa, A., Kanamori, H. (1994) Deep structure of Japan subduction zone as derived from local, regional, and teleseismic events, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 99, pp. 22313-22329.
- Zhao, D., Yanada, T., Hasegawa, A., Umino, N., Wei, W. (2012) Imaging the subducting slabs and mantle upwelling under the Japan Islands, *Geophysical Journal International*, 190, pp. 816-828.